

# 全国国際教育研究協議会

Japan Association For International Education

略称「国際教」「国際研」「JAFIE」「ジャフィー」

## 2009（平成21）年度総会資料

日時 2009（平成21）年5月28日（木）

15:00 ~ 17:30

会場 国際協力機構（JICA）地球ひろば セミナールーム

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

TEL：03-3400-9426 FAX：03-3400-7394

<http://www.jica.go.jp/branch/hiro/jimusho/index.html>

東京メトロ日比谷線広尾駅下車(A3出口) 徒歩1分

### 事務局連絡先

東京都立新宿山吹高等学校（通信制課程）

全国国際教育研究協議会 事務局長 女屋 隆充（おなや）

〒162-8612 東京都新宿区山吹町81

Tel 03-5261-9771（代表）Fax 03-5261-9750

e-mail [info@kokuaiken.org](mailto:info@kokuaiken.org)

（個人アドレスは、p.3をご参照ください）

## 理事会・総会次第

- |  |              |
|--|--------------|
| 1 開会のことば                                     | 副会長          |
| 2 会長挨拶                                       | 会長           |
| 3 来賓ご紹介及びご挨拶                                 |              |
| 4 議長選出                                       |              |
| 5 議事   |              |
| (1) 2008(平成20)年度事業報告                         | 事務局長         |
| (2) 2008(平成20)年度会計決算及び監査報告                   | 会計 監事        |
| (3) 2009(平成21)年度役員の選出                        |              |
| 役員の推薦 承認                                     | 会長           |
| 新役員代表あいさつ                                    | 新会長          |
| (4) 2009(平成21)年度事業計画(案)審議                    | 事務局長         |
| (5) 2009(平成21)年度会計予算(案)審議                    | 会計           |
| (6) 第46回全国研究大会青森大会について                       | 青森県会長 青森県事務局 |
| *高校生英語・留学生日本語弁論大会を含む                         |              |
| (7) 弁論大会参加規定見直しについて                          | 事務局長         |
| *事務局案の提示及び審議のみ...正式決定は来年度の総会(以降)             |              |
| 6 関係諸機関から                                    |              |
| 7 連絡事項等                                      |              |
| (1) 今後の研究大会開催県について                           | 事務局長         |
| 第47回 2010年(平成22年)茨城大会 第48回 2011年(平成23年)和歌山大会 |              |
| (2) 加盟校名簿更新作業について                            | 事務局長         |
| (3) 会費納入について                                 | 会計           |
| (4) プロック補助金申請について                            | 会計           |
| (5) 国際教育功労者推薦について                            | 事務局長         |
| (6) 全国組織の名称変更について                            | 事務局長         |
| (7) WEBについて                                  | 副事務局長        |
| (8) NPOについて                                  | 副事務局長        |
| (9) その他                                      |              |
| 8 閉会のことば                                     | 副会長          |

総会終了後、国際教育懇親会を行います。ぜひご参加ください。

(1F カフェフロンティアにて。参加費を別途徴収致します。)

補足

1 この冊子とは別に添付している書式は以下のとおりです。

**教育功労者推薦書式** B 4 本会より表彰 全国研究大会にて感謝状贈呈

締切 6月30日 提出先 事務局長 提出方法 メールまたは郵送

事務局長(女屋)アドレス [tk3cehst@yahoo.co.jp](mailto:tk3cehst@yahoo.co.jp)または[onaya@kokusaiken.org](mailto:onaya@kokusaiken.org)

**平成21年度会費の納入** B 4 会費納入口座名・納入期限を記載してあります

締切 7月31日 納入通知先 会計担当副事務局長 通知方法 FAXまたはメール

**納入が遅れる場合等、会計担当までご連絡**ください。

**ブロック助成金申請書式** B 5 今年度のブロック事務局校のみ

締切 12月25日 申請先 会計担当副事務局長 提出方法 郵送 \*メール不可

**ブロック公印を押印した文書(書式は任意)**での申請をお願いします。

・ の連絡(問い合わせ)先 2009(平成21)年度会計 幸田 雅夫 勤務校 玉川聖学院  
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢7-11-22 TEL 03-3702-4141 FAX 03-3702-8002  
e-mail [koda-m@tamasei.ed.jp](mailto:koda-m@tamasei.ed.jp) または [kouda@kokusaiken.org](mailto:kouda@kokusaiken.org)

**都道府県メールアドレス・パスワード** ( [@kokusaiken.org](mailto:) ) 管理にご注意を!

2 **加盟校名簿更新** 昨年度の名簿データを6月中にお送りする予定です。

締切は7月末、新名簿は全国研究大会にあわせて発行する予定です。

\* 締切までに更新データ未提出の場合、前年度のデータを印刷しますので、ご承知おきください。

3 **メーリングリストとブログの活用** 以下の項目にご協力ください。

メールのチェック

メーリングリストの活用 ( [zenkokumi@kokusaiken.org](mailto:zenkokumi@kokusaiken.org) = zenkokuの後のmlを忘れずに! )

ブログの作成への取り組み推進をお願いします。

全国国際教育研究協議会HP <http://www.kokusaiken.org> ぜひ一度アクセスを!

Web・メールについての問い合わせ先 副事務局長 斉藤 宏 [saito@kokusaiken.org](mailto:saito@kokusaiken.org)

冊子後半部分に資料がありますので、お読みください。

## 議事資料 (1)2008(平成20)年度事業報告

### 第45回全国国際教育研究大会埼玉大会報告(概要)

大会テーマ「Education for Sustainable Development

持続可能な開発・発展のための教育活動」

#### 1. 大会趣旨

平和問題と同時に我々は世界規模での産業構造の変化、環境問題・食糧問題・エネルギー問題への取り組み、新たな感染症への対策など多くの国際的な課題を抱えている。21世紀初頭のこの大きな社会変化と複雑さを増す国際関係の渦の中で、自ら学び、自ら考え、問題解決能力を身につけた国際社会の形成に貢献できる心豊かでたくましい人材の育成が求められている。

これらの課題に応えるため、海外移住教育の充実に始まった本研究協議会は、途上国の経済発展と国際社会で協調できる若者の資質を養うため、全国各地域で国際教育・開発教育について研究を行ってきた。この変化する社会を生き抜くため、本研究大会は、参加する者が地球市民として共に国際教育・開発教育の成果と課題を共有することを目的に開催する。

本研究大会(埼玉大会)では、「Education for Sustainable Development(ESD)持続可能な発展のための教育活動」を大会テーマに掲げ、現在の国際社会が求める新たな人材の育成について考えを深めたい。

2. 主催 全国国際教育研究協議会 埼玉県国際教育研究協議会 関東甲信越静地区高等学校国際研究協議会

3. 共催 独立行政法人国際協力機構(JICA)

4. 後援 外務省・文部科学省・財団法人日本国際協力センター・国際協力銀行・独立行政法人国際交流基金・埼玉県・埼玉県教育委員会・財団法人埼玉県国際交流協会・さいたま市教育委員会・財団法人さいたま市国際交流協会・青年海外協力隊埼玉OB会

5. 日時 平成20年8月21日(木) 9:30~17:10 8月22日(金) 9:30~12:30

6. 会場 浦和コミュニティーセンター(埼玉県さいたま市浦和区東高砂町11-1 JR浦和駅前)

7. 参加対象 全国国際教育研究協議会加盟校の教職員および生徒

第28回高校生英語弁論大会出場生徒および引率者・保護者

第8回留学生日本語弁論大会出場生徒および引率者・保護者

国際協力・交流・理解・開発教育等に関心のある生徒および保護者 国際教育関係諸機関の職員 国際教育や開発教育にかかわるNGO/NPOの職員・関係者

#### 8. 大会日程

第1日目 8月23日(木)

9:00~9:30 受付

9:30~10:10 開会式(多目的ホール)

開式のことば 大会副会長 阿部 博之(埼玉県立春日部女子高等学校長)

主催者挨拶 大会会長 鈴木 孝義(埼玉県立蕨高等学校長)

全国国際研会長 高田 幸一(東京都立雪谷高等学校長)

共催者挨拶 独立行政法人国際協力機構JICA地球ひろば次長 堀内 好夫様

来賓挨拶 外務省 NGO担当大使 五月女 光弘様

文部科学省 教科調査官 平木 裕様

独立行政法人国際交流基金 文化事業部長 池田 豊様

埼玉県県民生活部 国際課長 星野 喜治様

来賓紹介 大会会長 鈴木 孝義（埼玉県立蕨高等学校長）  
 功労者感謝状贈呈 前埼玉県国際教育研究協議会会長 坂巻 守男先生  
 閉式の言葉 大会副会長 阿部 博之（埼玉県立春日部女子高等学校長）  
 10:10～10:30 休憩  
 第9集会室 審査委員打ち合わせ 第11集会室 出場生徒への説明会  
 10:30～12:10 第28回高校生英語弁論大会 第8回留学生日本語弁論大会  
 開会のことば 大会運営理事 萩原 訓文（埼玉県立川越総合高等学校長）  
 審査員紹介 大会会長 鈴木 孝義（埼玉県立蕨高等学校長）  
 審査委員長（英語） 外務省 五月女 光弘様 英・日  
 審査委員長（日本語）文部科学省 平木 裕様 英・日  
 審査委員 国際協力機構（JICA）地球ひろば次長 堀内 好夫様 英・日  
 審査委員 国際交流基金文化事業部長 本間 豊様 英・日  
 審査委員 日本国際協力センター国際交流部長 中村 俊介様 英・日  
 審査委員 埼玉県県立学校部高校教育指導課指導主事 鈴木 啓修様 英・日  
 審査委員 埼玉県県民生活部国際課国際交流員 Christopher Ferrito様 英  
 閉式のことば 大会運営理事 萩原 訓文（埼玉県立川越総合高等学校長）  
 12:10～13:30 昼食・休憩 審査会議（第7集会室） 大会基調講演と並行  
 13:30～15:10 大会基調講演  
 演題 「持続可能な未来に向けて - ことば・文化・コミュニケーション」  
 (For a Sustainable Future---Language, Culture and Communication)  
 講師 鳥飼 玖美子先生 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科教授  
 講演者略歴紹介 大会会長 鈴木 孝義（埼玉県立蕨高等学校長）  
 お礼のことば 大会副会長 阿部 博之（埼玉県立春日部女子高等学校長）  
 15:30～16:40 全体会発表  
 演題 「留学生への日本語指導～持続的発展を支える地球人の育成～」  
 講師 坂巻 守男 花咲徳栄高等学校副校長（埼玉県国際教育研究協議会前会長）  
 16:40～17:10 弁論大会審査発表  
 結果発表 埼玉大会事務局 本木 正和（埼玉県立蕨高等学校教諭）  
 講評 英語弁論 審査委員長（英語）外務省 五月女 光弘様  
 日本語弁論 審査委員長（日本語）文部科学省 平木 裕様  
 表彰式 記念写真撮影  
 18:00～20:00 教育懇談会・情報交換会 参加費 ￥5,000（別途徴収）

結果一覧

順	部門	名前	都道府県	学校名	学年	タイトル	結果
1	英語	成田 冬美	福井 (北陸)	県立武生東 高等学校	2 年	Image about Foreigners	国際研会長賞
2	英語	田村 寧子	埼玉 (関東)	県立不動岡 高等学校	2 年	Water:The Future is Unclear	外務大臣賞
3	英語	王 申冉	東京 (関東)	都立 西高等学校	1 年	Do I waste?	JICA 理事長賞

4	英語	山本 麻衣稀	長崎 (九州)	県立佐世保北 高等学校	1 年	What is Chocolate?	JICE 理事長賞
5	英語	大抜 留奈	栃木 (関東)	県立足利女子 高等学校	2 年	World Peace	国際交流基金 理事長賞
6	英語	小村 夏子	島根 (中国)	県立松江北 高等学校	3 年	A Step toward International Exchange	文部科学大臣 奨励賞
7	英語	中野 薫	青森 (東北)	八戸聖ウルス ラ学院 高等学校	3 年	What One Can Do.	国際研会長賞
8	英語	山本 裕貴	愛媛 (四国)	県立松山西中 等教育学校	6 年	Learning the Truth of History	国際研会長賞
9	日本語	マリン・ミッチェル	茨城 (関東)	県立日立第一 高等学校	2 年	ちがうけれども 平等です	JICA 理事長賞
10	日本語	Ida Maria Ruiken	北海道 (同)	道立旭川農業 高等学校	2 年	あこがれの国、 異文化の国、日 本に触れて	国際研会長賞
11	日本語	岡田 莎莉	長野 (関東)	県立下高井農 林高等学校	3 年	私の夢	外務大臣賞
12	日本語	久保アツシ・絵梨夏	東京 (関東)	都立国際高等 学校	2 年	私実感した日 本の学校生活	国際研会長賞
13	日本語	アキーノ・ウィルメル	埼玉 (関東)	県立大宮工業 高等学校	3 年	人生最大の失敗	JICE 理事長賞
14	日本語	金 明一	山梨 (関東)	山梨英和 高等学校	2 年	日本でのホーム ステイ	国際交流基金 理事長賞
15	日本語	エルナンデス・サルバドール・ニシイ・ケイ	千葉 (関東)	県立成田西陵 高等学校	3 年	言葉のチカラ	文部科学大臣 奨励賞

第2日目 8月22日(金)

9:00~9:30 受付

9:30~10:30 分科会

ESDについて 拓殖大学国際開発教育センター 石川 一喜

開発教育支援について JICA 地球ひろば 樋口 創 中部市民参加調整員 西尾 治美

教育実践発表「国際学院の国際教育実践」中野 雅也(埼玉県私立国際学院高等学校教諭)

教育実践発表「埼玉県高校生世界円卓会議」千國 徳隆(埼玉県立蕨高等学校教諭)

荻原 ゆかり(埼玉県立南稜高等学校教諭)

国際教育講演会「日本人としてどう生きるか」関 美奈子(埼玉県立新座梁瀬高等学校教諭・

JICA 青年海外協力隊OG(サモア))

...主に生徒向け

10:40～12:00 全体会発表

演題 「NHK教育テレビ『エリンが挑戦！にほんごできます』を通して」

講師 根津 誠（独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター専任講師）

講演者略歴紹介 大会会長 鈴木 孝義（埼玉県立蕨高等学校長）

お礼のことは

12:05～12:30 閉会式（多目的ホール）

開式のことば 大会副会長 荻原 訓文（埼玉県立川越総合高等学校長）

開催県挨拶 大会会長 鈴木 孝義（埼玉県立蕨高等学校長）

全国国際研挨拶 全国国際研会長 高田 幸一（東京都立雪谷高等学校長）

次期開催県挨拶 青森県会長 遠藤 智久（青森県立三本木農業高等学校長）

閉式のことば 大会副会長 荻原 訓文（埼玉県立川越総合高等学校長）

13:30～14:30 全国事務局長会議（第7集会室にて）

- \* 埼玉大会は、「持続可能な開発・発展のための教育活動」という最も今日的なテーマを掲げ、内容の濃い、充実した大会を開催することができました。大会共催者のJICA地球ひろばをはじめ、後援をいただいた関係諸機関の皆様、大会準備及び運営全般に携わっていただいた埼玉県国際研の先生方に、改めて感謝申し上げます。また、大会成功の大きな要因となりました県内高校生の皆さんにも感謝いたします。
- \* 1日目の鳥飼先生の講演は、大変わかりやすくまた幅広くESD(持続可能な開発のための教育)をとらえる機会となりました。生徒からの質問も出て、将来への期待も感じとれました。2日目の石川先生のESDに関する分科会とあわせて、大会テーマを深めるよいプログラムであったと思います。
- \* 2007(平成19)年度に埼玉県内で開催された「高校生円卓会議」(2日目分科会発表)は、国際研の実践・研究活動に即する取り組みです。この実践報告は、『国際教育・開発教育インフォメーション第4号』にも掲載させていただきましたので、ぜひご一読ください。
- \* 昨年度の島根大会同様、埼玉大会でも日本語弁論大会の参加生徒の確保に苦慮しました。結果的には関東甲信越静地区を中心に8名の参加者があり、内容も多彩でした。「国際研らしい弁論大会」(他の弁論大会との差別化)を運営するには、弁論大会参加規定を見直す必要があると全国事務局では考えています。後ほど改正案と趣旨説明を行いますので、ぜひご意見をお寄せください。
- \* ここ数年、外部(関係諸機関)との連携のありようが変化し続けており、全国研究大会の運営についても、見直しを迫られる場面が増えています。国際研にとって、全国研究大会は、年1回の研究成果の発表の場であり、生徒が地球的課題などについて、自らの考えを主張できる貴重な教育の場です。埼玉大会は、従来よりもかなり大会費用を抑えて運営していただきましたが、継続的に大会を開催していくためにも、費用を抑えた大会運営へのさらなるご理解・ご協力をお願い致します。同時に、地域が偏らない大会開催(地域持ち回り)へのご理解・ご協力もお願い致します。

## 研究調査

テーマ 国際教育(国際理解教育/開発教育)に関する研究調査

昨年度に引き続き、JICA地球ひろばとの連携により、『国際教育・開発教育インフォメーション第4号』を刊行した。また、弁論大会実施要領改定に関して、事務局案及びスケジュール等を提示し、各都道府県からの意見集約を行った(2009(平成21)年度へ継続)。

## 研究成果刊行

1)第45回全国国際教育研究大会埼玉大会報告書

(A4 2009/3月発行 各都道府県事務局校・関係諸機関等に配布)

2)国際教育・開発教育インフォメーション第4号 (前項を参照)

(B5版 約6000部 2009/3月発行 全国の高等学校・各都道府県事務局校等にJICAエッセイコンテ  
ストポスターに同封し、配布(5月頃))

3)2008(平成20)年度 全国国際教育研究協議会加盟校名簿

(A5 200部 全国事務局でCD-R作成...各都道府県事務局等に名簿に添付し配布)

4)研究成果収録(各県の研究成果)日本教育研究連合会総会等に展示

5)全国国際教育研究協議会HP [kokusaiken.org](http://kokusaiken.org) 更新 \*後段WEB・ブログ資料参照

## 研究助成等

1)地区ブロック協議会への助成

北海道・東北・関東甲信越静・東海北陸・近畿・中国\*・九州の7ブロック

(\*中国ブロックは、現在未成立)1ブロック3万円を助成(年度ごとに)

なお、国際教育実践モデル校(毎年3校 全国大会で発表した学校)は、逼迫する全国会計の状況や  
公務員倫理規定の制定等を鑑み、2007(平成19)年度の全国総会において廃止された。

## 表彰

全国大会開催に際し、特に功労のあった先生を日本教育連合会の表彰者に推薦した(表彰は翌年夏)。  
2008(平成20)年度は、島根大会開催委員長、全国副会長 前島根県立出雲農林高等学校校長 佐野  
明先生を推薦。日本教育連合会より表彰された(8月)。

## 自己資金の確立と賛助会員の拡大

研究活動等を積極的に行うためには、財政面の拡充が不可欠である。2008(平成20)年度は、(財)  
日本国際協力センター(JICE)などの関係諸団体が賛助会員となった。なお、昨今の社会情勢の変化等  
もあり、賛助会員としてご協力いただける団体は減少した。

## 独立行政法人 国際協力機構（JICA）との連携・協力

全国国際教/国際研は、設立当初からJICAと連携して活動している（『国際教育・開発教育インフォメーション第4号』・「あゆみ」の項目を参照）。

2008（平成20）年度の主な連携・協力は以下のとおりであった。

### 1) 第45回全国国際教育研究大会埼玉大会への共催

大会プログラム経費支援、大会来賓派遣、英語・日本語弁論大会への審査および理事長賞授与、第2分科会ファシリテーター、その他

### 2) JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2008 応募勸奨および審査協力

1次審査を次期大会開催ブロックで実施...2009(平成21)年度は青森大会となるため、東北ブロックの先生方に審査へ協力していただいた。

2次審査は、JICA 国内機関が置かれている地区の国際研の教員が審査員として協力した（全国事務局でとりまとめた）。

最終選考には、全国会長が審査員として協力した。

なお、コンテストの事務連絡・とりまとめは、JOC A(青年海外協力協会)が担当した。

\*2008(平成20)年度のコンテスト応募数は、前年に比べ大幅に伸び、特に、東北地区の応募増が目立ちました。1次審査への協力も含め、組織的にご対応いただいたことを感謝申し上げます。

### 3) 国際協力キャンペーン等への参加 国際協力プログラムへの講師派遣等

### 4) 教師海外派遣応募勸奨 各都道府県会長等の推薦

### 5) 青年海外協力隊、シニアボランティア 現職参加の勸奨

### 6) 各地区における JICA 国内機関との連携・促進

#### Web ネットワークの運営

web 担当の斉藤副事務局長を中心に、ネットワーク化推進を継続した。具体的には、各都道府県事務局へ HP・ブログへの書き込みを働きかけた。

例年どおり、全国総会の際に、各都道府県事務局校へメールアドレスを割り当て、Webメールの活用を呼びかけた。各県のメールアドレスとパスワードは、各都道府県事務局長校へ連絡した。

数年前には、すべての都道府県事務局校（あるいは会長校）と全国事務局をつなぐメーリングリストが完成したが、2008年度も十分活用しきれない部分が残った。ブログへの書き込みも含め、より活発な活用が実現するよう、さらに取り組んでいくことが今後の課題となった。

## (2)平成 20(2008)年度 決算報告

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

### 1. 収入の部

収入項目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
会費	1,200,000	1,260,000	60,000	@ 30,000 円×40 県(前年度未納入県は除く) * 1
賛助金	50,000	200,000	150,000	賛助会員等
共同事業費	0	0	0	* インフォメーション発行は引き続き交渉
雑収入	30,000	39,319	9,319	懇親会会費、預金利息等
前年度繰越金	830,782	830,782	0	
合 計	2,110,782	2,330,101	219,319	

### 2. 支出の部

支出項目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
研究調査費	50,000	56,010	-6,010	サーバー費等
教育研修費	210,000	180,000	30,000	ブロック助成金 @ 30,000×6 * 2
研究大会運営費	600,000	600,000	0	埼玉大会運営費
モデル校育成費	0	0	0	研究大会発表者
旅費・交通費	50,000	0	50,000	
通信・運搬費	50,000	57,383	-7,383	
印刷費	70,000	61,950	8,050	加盟校名簿
消耗品費	65,000	67,865	-2,865	全国大会楯、賞状、賞状筒、筆耕料他
会議費	70,000	55,000	15,000	総会後懇親会費用
一般運営費	40,000	34,095	5,905	振込手数料、(財)日本教育研究連合会会費 * 3
予備費	905,782	0	905,782	
合 計	2,110,782	1,112,303		

### 3. 収支

収入額	2,330,101
支出額	1,112,303
次年度繰越金	1,217,798

< 備考 >

\* 1 会費未納県: 7 県 新潟県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、大分県、熊本県(全て連絡確認済)  
千葉県、奈良県が 19 年度分を入金

\* 2 教育研修費: ブロック助成金 6 ブロック 北海道、東北、関東、東海北陸、四国、近畿

\* 3 日本教育研究連合会会費 30,000 円

### 会計監査報告

諸帳簿監査の結果、上記決算書は適正であることを認めます。

監 事 寶 槻 広 印

## (3)2009(平成21)年度 役員選出

役職名	氏名	職名	勤務校	TEL/FAX
会長	高田 幸一	校長	東京都立雪谷高等学校 〒146-0085 東京都大田区久が原 1-14-1	TEL03-3753-0115 FAX03-3754-7871
副会長	松本 光正	校長	東京都立墨田工業高等学校 〒135-0004 東京都江東区森下 5-1-7	TEL03-3631-4928 FAX03-3846-6683
副会長	遠藤 智久	校長	青森県立三本木農業高等学校 〒034-8578 青森県十和田市大字相坂字高清水 78-92	TEL0176-23-5341 FAX0176-23-2141
副会長	谷荻 紀行	校長	茨城県立勝田高等学校 〒312-0003 茨城県ひたちなか市足崎 1458	TEL029-273-7411 FAX029-276-1650
理事	茂泉 吉則	校長	東京都立三鷹高等学校 〒181-0004 東京都三鷹市新川 6-21-21	TEL0422-46-3311 FAX0422-49-8429
理事	中村 秀行	校長	東京都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 東京都新宿区山吹町 8 1	TEL03-5261-9771 FAX03-5261-9750
理事	伊藤 清	校長	東京都立日野高等学校 〒191-0021 東京都日野市石田 1-190-1	TEL042-581-7123 FAX042-581-5835
理事	白水 考治	校長	東京都立淵江高等学校 〒121-0063 東京都足立区東保木間 2-10-1	TEL03-3885-6971 FAX03-3860-1308
理事	浦部 万里子	校長	東京都立国際高等学校 〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-19-59	TEL03-3468-6811 FAX03-3466-0080
理事	野中 繁	校長	東京都立青梅総合兼農林高等学校 〒198-0041 東京都青梅市勝沼 1-60-1	TEL0428-22-7604 FAX0428-22-7624
理事	佐藤 喜一郎	校長	東京都立農産高等学校 〒124-0002 東京都葛飾区西亀有 1-28-1	TEL03-3602-2865 FAX03-3602-8330
理事	岡田 正治	校長	東京都立篠崎高等学校 〒133-0063 東京都江戸川区東篠崎 1-10-1	TEL03-3678-9331 FAX03-3678-9334
理事	丸山 正広	校長	東京都立大森高等学校 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 2-2-1	TEL03-3753-3161 FAX03-3754-0978
理事	吉兼 元幸	校長	東京都立紅葉川高等学校 〒134-8573 東京都江戸川区臨海町 2-1-1	TEL03-3878-3021 FAX03-3878-3049
監事	星野 裕史	校長	東京都立南葛飾高等学校 〒124-0012 東京都葛飾区立石 6-4-1	TEL03-3695-8476 FAX03-3695-5907
監事	野口 由雄	校長	文京学院大学女子高等学校 〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3	TEL03-3946-5301 FAX03-3946-7294
監事	寶槻 広	校長	東京都立一橋高等学校 〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-12-13	TEL03-3862-6061 FAX03-5687-1862
常務理事	鹿目 憲文	副校長	東京都立紅葉川高等学校 〒134-8573 東京都江戸川区臨海町 2-1-1	TEL03-3878-3021 FAX03-3878-3049
常務理事	有里 泰徳	教諭	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 〒885-0033 宮崎県都城市妻が丘 27-15	TEL0986-23-0223 FAX0986-24-5884

## 2009(平成21)年度 顧問一覧表

氏名	役職・勤務校	氏名	役職
稲垣 実夫	初代全国会長 元都立瑞穂農芸高校長	伊川 公司	元全国会長 元都立雪谷高校長
千葉 良蔵	元全国会長 元都立園芸高校長	矢田部 正照	元全国会長 元都立農産高校長 現 JAGE 理事長
板橋 英一	元全国会長 元都立桜町高校長	山口 敏夫	元全国事務局長 元東京実業高校教諭
大島 正弘	元全国会長 元文部省(当時)	上松 信義	元全国会長 元都立農産高校長
堀内 八郎	元全国会長 元都立篠崎高校長	豊田 岩男	元全国会長 元都立成瀬高校長
赤木 昭治	元全国会長 元東京農工大学教授	長谷川 賢	前全国会長 前都立神代高校長
伊藤 久雄	元全国会長 元都立小山台高校長	佐藤 公作	前全国副会長 前都立成瀬高校長
永井 實	元全国会長 元都立五日市高校長		
野中 進	元全国会長 元都立園芸高校長		

## 2009(平成21)年度全国事務局名簿

役職担当	氏名	勤務校	TEL/FAX
常務理事 事務局長	女屋 隆充	東京都立新宿山吹高等学校(通) 〒162-8612 新宿区山吹町 81	TEL03-5261-9771 FAX03-5261-9750 onaya@kokusaiken.org
常務理事 副事務局長 Web 総務	斉藤 宏	東京都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 新宿区山吹町 81	TEL03-5261-9771 FAX03-5261-9750 saito@kokusaiken.org
常務理事 副事務局長 会計	幸田 雅夫	玉川聖学院中等部・高等部 〒158-0083 世田谷区奥沢 7-11-22	TEL03-3702-4141 FAX03-3702-8002 kouda@kokusaiken.org
常務理事 副事務局長 渉外 総務	竹山 哲司	東京都立六本木高等学校 〒106-0032 港区六本木 6-16-36	TEL03-5411-7327 FAX03-5411-7367 takeyama@kokusaiken.org
常務理事 副事務局長 渉外 総務	高島 みゆき	東京都立日野高等学校 〒191-0021 日野市石田 1-190-1	TEL042-581-7123 FAX042-581-5835 takashima@kokusaiken.org
常務理事 副事務局長 渉外 私学	入江 祥史	文京学院大学女子高等学校 〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3	TEL03-3946-5301 FAX03-3946-7294
常務理事 総務	増田 雅子	東京都立大森高等学校 〒144-0051 大田区西蒲田 2-2-1	TEL03-3753-3161 FAX03-3754-0978

常務理事 総務	濱砂 千夏	東京都立紅葉川高等学校 〒134-8573 江戸川区臨海町 2-1-1	TEL03-3878-3021 FAX03-3878-3049
常務理事 総務	橘 都	東京都立杉並高等学校 〒166-0016 杉並区成田西 4-15-15	TEL03-3391-6530 FAX03-3398-3767
常務理事 総務	藤村 由夏	東京都立国際高等学校 〒153-0041 目黒区駒場 2-19-59	TEL03-3468-6811 FAX03-3466-0080
常務理事 庶務	宇治川 秀	東京都立青山高等学校 〒150-0001 渋谷区神宮前 2-1-8	TEL03-3404-7801 FAX03-3404-0182
常務理事 庶務	小島 義晴	東京都立国際高等学校 〒153-0041 目黒区駒場 2-19-59	TEL03-3468-6811 FAX03-3466-0080
常務理事 私学	石飛 一吉	多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校 〒206-0022 多摩市聖ヶ丘 4-1-1	TEL042-372-9393 FAX042-337-1761
常務理事 私学	白岩 真香	多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校 〒206-0022 多摩市聖ヶ丘 4-1-1	TEL042-372-9393 FAX042-337-1761
常務理事 書記	藤田 美保	東京都立大森高等学校 〒144-0051 大田区西蒲田 2-2-1	TEL03-3753-3161 FAX03-3754-0978
常務理事 渉外	庄司 養昌	東京都立農産高等学校(定) 〒124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1	TEL03-3602-2865 FAX03-3602-8330
常務理事 会計	柳 由美子	東京都立三鷹高等学校 〒181-0004 三鷹市新川 6-21-21	TEL042-246-3311 FAX042-249-8429
常務理事 会計	西村 浩司	東京都立第一商業高等学校 〒150-0035 渋谷区鉢山町 8-1	TEL03-3463-2606 FAX03-3463-2050
常務理事 調査研究	長村 嘉浩	東京都立稔が丘高等学校 〒165-0031 中野区上鷲宮 5-11-1	TEL03-3970-8655 FAX03-3926-7523
常務理事 庶務	江森 忍	東京都立瑞穂農芸高等学校 〒190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027	TEL042-557-0142 FAX042-556-2439
常務理事 書記	関根 雅子	東京都立雪谷高等学校 〒146-0085 大田区久が原 1-14-1	TEL03-3753-0115 FAX03-3754-7871

## (4)2009(平成21)年度事業計画(案)審議

### 第46回全国国際教育研究大会 青森大会

後段(6)で審議・・・詳しくは「大会要項」(案)を参照

#### 研究調査

2005年度以降、JICAの協力を得て『国際教育・開発教育インフォメーション』を刊行し、全国の高等学校・中等教育学校等へ配布してきた。過日行われたJICA地球ひろば(市民参加協力促進課)と全国事務局長との打ち合わせの際にも上記冊子について意見交換し、今年度も引き続き発行することが確認された。そして、JICA側から積極的に提案や意見交換等を行いたいとの意向も伝えられた。

『インフォメーション』は、学校現場(主に中等教育)における国際教育の普及・発展を目指し、各地の優れた実践を共有し、研究を深めることを狙いとしている。全国の学校にこの冊子が配布されることが重要であり、現在のやり方は、国際研にとって利益が大きい。内容の充実を図るためにも、引き続き、実践・研究成果の報告にご協力をお願いしたい。

全国研究大会に関して、数年前から特に弁論大会に関する諸規定の整備が急務と認識している。この問題に関しては、今年度の全国総会で事務局案を提示させていただくので、ぜひ忌憚ないご意見を寄せいただきたい(後段(7)を参照)。

国際研は、半世紀近くの歴史を有し、全国の加盟校は2500校を超える組織である。昨今の学校現場の多忙化により、東京の全国事務局では十分な時間と人員をあてることができていない(各道府県の状況も同様かと推察)が、学校単位の組織である国際研において、国際教育に関する調査・研究活動を充実させることは、国際教育の普及・発展に意義が深いことである。状況は厳しいが、以下列挙するようなテーマについて、調査研究を進めることを目標としたい。

- ・ 国際教育のこれまでのあゆみと今後の課題～国際研の歴史も含む
- ・ 国際教育に関する「海外修学旅行」「生徒研修会」等について
- ・ 各都道府県国際研および学校現場における国際教育の実践報告と研究
- ・ 各地域における国際教育の現状と課題

実践報告(授業・特別活動等 広く学校教育に関わるもの)はもちろん、研究論文等も全国事務局までお寄せ下さい。Web等にて公開できれば、と考えております。

#### 研究成果刊行等(未定のものも含む)

##### 1)第46回全国国際教育研究大会青森大会報告書

(A4 冊数未定 2010/3 発行予定 参加者及び各都道府県会長・事務局校等に配布)

##### 2)国際教育・開発教育インフォメーション第5号(JICAの支援による)

(B5 約6000部 2010/3 発行予定 全国の高等学校・中等教育学校等に配布)\*昨年に準ずる

#### その他の刊行

##### 2009(平成21)年度 全国国際教育研究協議会加盟校名簿

(A5 約200部 2009/8 青森大会にあわせて発行予定 各都道府県会長・事務局校等に配布)

昨年同様、データをCD-ROMに落とし、別途配布する予定

## 研究助成等

1) 地区ブロック協議会への助成・・・1ブロック3万円 年度ごとに助成  
北海道・東北・関東甲信越静・東海北陸・近畿・中国\*・九州の7ブロック。

(\*中国ブロック=現在未成立)ブロック会長印を押印し、申請書(書式は任意)を全国事務局会計  
まで郵送で提出 締切=12月25日

詳細は別紙書式を参照して下さい。 (案内文書はブロック事務局校のみに配布)

## 表彰

1) 本会の研究活動に顕著な功労のあった先生に対し、全国国際研究協議会から功労者感謝状贈呈の表彰を行う。今年度もぜひ、ご推薦下さい。(別紙様式参照)

2) 全国大会開催に際し、特に功労のあった先生に対し、翌年度に日本教育連合会の表彰者に推薦する。

今年度は、埼玉大会開催委員長で昨年度全国副会長の埼玉県立蕨高等学校長 鈴木 孝義先生を推薦致します。

## 自己資金の確立と賛助会員の拡大

社会情勢は厳しいが、従来通り、これまでの賛助会員に加え、新たな関係諸団体が加盟されるよう、働きかけを続けていく。

## 独立行政法人 国際協力機構(JICA)との連携・協力

JICAの組織改編により、JICA地球ひろばが全国事務局との連携窓口となった。現在の担当は、市民参加協力促進課である。

2007年度以降、JICA事業がプロポーザル方式(複数の団体による競争方式)で行われることになり、長年国際研が協力している「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」も同様となった。過去3年間の実務は、青年海外協力協会(JOCA)が担当している(今年度までの契約)。

全国事務局としては、会の成り立ち及び今日までのあゆみ、現在の日本における国際教育の意義などの観点から、JICA側には従来どおりの連携を求め、さらなる関係強化を目指していく。

以下、主な従来での連携・協力項目について列挙する。

1) 全国研究大会・弁論大会への共催

今年度のJICA地球ひろば担当者との会合で基本線は例年どおりとなった。今夏は青森大会なので、JICA東北支部との連携が主になる。大会事務局、全国事務局、JICA地球ひろば、JICA東北支部で連絡を取りあい、実務を進めていく。

2) 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」2009に関して

現在の審査は、1次審査 2次審査 (JICA国内機関会議) 最終審査の手順をとる。従来どおり、

国際研は、エッセイコンテストを後援する。すなわち、「生徒への応募勸奨・指導」「第1次審査～最終選考の審査への協力」「改善点等を含んだ問題提起」のすべてに、組織として関わっていく。

最も労力を要する第1次審査については、来年度の全国研究大会が茨城県なので、主な担当は関東甲信越静ブロックとなる。また、国際教育協会（JAGE/NPO 国際研）の正式発足にあわせ、同協会と連携し、1次審査をより効率的に進めていくように調整する。

第2次審査は、JICA 国内機関が置かれている地区の国際研の教員が審査員として協力してきた。このことは、2005(H17)年度の全国事務局と JICA 市民参加協力室との会合において、「学校現場の意見を反映するように」との要望を伝えたことによる。

しかし、今年度の JICA との協議の中で、第2次審査員の依頼方法を改めたいとの申し入れがあった。新たなやり方は、JICA 各国内機関から直接、2次審査員を依頼するものである。主たる狙いは、2004（平成16）年度から実施してきた「開発教育支援事業」との直接的なリンクを図り、各国内機関の意向をより反映させたいとのことであった。

全国事務局では、この提案を「大きな変更」と受けとめた。全国事務局は、これまで「教育活動の一環としてのエッセイコンテスト」という立場から、すべての審査に「教育関係者」を入れるよう要求してきた。そして、一定程度の審査員を確保でき、審査水準をある程度保つためには、発足より組織的に関わっている国際研との協力関係が重要ではないかと説明してきた。

今年度は、総会終了後の6月一杯をメドに、第2次審査員に協力いただける先生を全国事務局までご連絡ください。JICA国内機関のある都道府県、または各ブロック事務局長へ連絡します。

エッセイコンテストに関する議論は、秋以降も行いますので、ご意見やご指摘を全国事務局長までお寄せください。（メール = [tk3cehst@yahoo.co.jp](mailto:tk3cehst@yahoo.co.jp) か FAX = 03-5261-9750 のいずれかで）。

なお、最終審査の選考委員に全国会長が加わっており、これは従来どおりの予定である。

2008年度のエッセイコンテストに高校生の部 = 23,517 作品、中学生の部 = 51,493 作品の応募がありました。高校生の部では前年に比べ6,497 作品増えました。学年や教科の課題として取り組む学校もあるかと思いますが、応募数により、特別学校賞・学校賞の表彰もあります。

今年度も応募勸奨と生徒への指導等について、格段の取り組みをお願い致します。

### 3) 教師海外研修に関して

今年度も JICA 国内機関ごとに実施され、選考及び実施期間等は、JICA 国内機関により異なる。

(<http://www.jica.go.jp/hiroba/study/other/index.html#kaigai> 参照)

国際研は、「学校現場において、同研修の成果を最も効果的に活かせるのは、当協議会の会員である」との立場をとり、JICA に対して当協議会との連携(推薦)を最重要視するように申し入れてきた。

各都道府県会長におかれては、協議会会員の先生方の応募推薦や参加勸奨へのご尽力を改めてお願いしたい。(応募書類には所属長(勤務校校長)の推薦文が必要。国際教育(国際理解教育/開発教育)への取り組みを記述する欄もあるので、エッセイコンテストへの取り組みは重要)。

グローバル化の進展に伴い「気軽に」海外へ出かけられるようになったが、開発途上国の実情やODAの現場に触れる機会は、まだそれほど多くはない。学校現場の教育活動に還元できる内容を多く含む教師海外研修へ参加する意義は、大きいと考えるところである。

### Web ネットワークの運営拡充

2008(平成20)年度の報告にも記したように、例年、全国総会の際に、各都道府県事務局校へメールアドレス( @kokusaiken.org)を割り当て、パスワードや活用方法を伝達してきた。

しかしながら、全国事務局と各都道府県会長・事務局長校とをつなぐメーリングリストやブログ等の活用は十分とは言えない状況である。教育現場の多忙化が進む中、より効率的に情報伝達・共有を行うためにメールのやりとりをスムーズに行うことは、とても重要である。

もし、国際研のメール( @kokusaiken.org)以外のアドレスの方がよい場合は、そのアドレスを全国事務局までお知らせいただき、今年度のメーリングリストにつながることを含めて、ご理解とご協力をお願いしたい。(原則的に個人アドレスは非公開だが、yahoo や google などの web メールをお使いいただくことがよいかと思われる)。あわせて、各都道府県内でのメーリングリスト(会長・事務局長を中心に、事務局担当の先生方等をつなぐもの)の整備もお願いしたい。

全国国際研 HP から都道府県ごとのブログにアクセスできるが、ブログに書き込みのある都道府県へのアクセスは、間違いなく増えている。私たちの活動を広く発信するためにも、今年度はより多くの都道府県がブログへ書き込みをしていただくようお願いしたい。

最後に、外部諸団体との連携についても、HP は大変効果的である。全国事務局 HP の充実はもちろん、各都道府県の HP の立ち上げ・充実についても、さらなるご理解とご協力をお願いしたい。

### 会長・事務局交代に関するお願い

年度末(3月末)で事務局引き継ぎを行う場合、必ず新事務局校を全国事務局までご連絡ください。全国総会案内は4月中に送りますので、早めにご連絡ください。

**(5)平成 21(2009)年度 会計予算(案)審議**

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

**1.収入の部**

収入項目	予 算 額	前年度決算額	差額	備 考
会費	1,200,000	1,260,000	-60,000	@ 30,000 円 × 40 県(前年度未納入県は除く)
賛助金	100,000	200,000	-100,000	賛助会員等
共同事業費	0	0	0	* インフォメーション発行は引き続き交渉
雑収入	30,000	39,319	-9,319	懇親会会費、預金利息等
前年度繰越金	1,217,798	1,217,798		
合 計	2,547,798	2,717,117	-169,319	

**2.支出の部**

支出項目	予 算 額	前年度決算額	差額	備 考
研究調査費	50,000	56,010	-6,010	サーバー費等
教育研修費	210,000	180,000	30,000	ブロック助成金 @ 30,000 × 7 * 1
研究大会運営費	600,000	600,000	0	青森大会運営費
モデル校育成費	0	0	0	研究大会発表者
旅費・交通費	150,000	0	150,000	青森大会文科省調査官・会長・事務局長出張旅費等
通信・運搬費	50,000	57,383	-7,383	
印刷費	70,000	61,950	8,050	加盟校名簿
消耗品費	65,000	67,865	-2,865	全国大会楯、賞状、賞状筒、筆耕料他
会議費	70,000	55,000	15,000	総会后懇親会費用
一般運営費	40,000	34,095	5,905	振込手数料、(財)日本教育研究連合会会費 * 2
予備費	1,242,798	0	1,242,798	
合 計	2,547,798	1,112,303	1,435,495	

&lt; 備考 &gt;

\* 1 教育研修費: ブロック助成金

\* 2 一般運営費: 日本教育研究連合会会費 30,000 円

\* 3 予備費: 来年度 8 月の大会に備えて、100 万円の繰越金は維持したい。

## (6) 第46回全国国際教育研究大会青森大会兼第36回東北地区高等学校国際教育研究

### 大会 青森大会(概要)について

\*大会要項は後日配布予定

大会テーマ 「共に生き、共にはたらく」  
開発教育の視点から

- 1 大会趣旨 現在、世界的な経済停滞の中で、新しい技術や発想でこの経済状況を乗り切ろうとする試みが始まったばかりです。しかし、この停滞はしばらく続くと予想され、今後とも労働機会の確保とその形態が大きな問題として残ると考えられます。  
たとえば、フェアトレードにおける「労働」に対する評価や、難民キャンプにおける「共に生きる」ための「共にはたらく」という行動は、私たちの労働における課題を考える参考になります。  
「人間の安全保障」の考え方に見られる「社会的」「精神的」に生きる力を発揮するための教育、そして「共にはたらく」という考え方も重要な視点になります。  
そこで、今回の青森大会は「共に生きる」ための社会という国際社会の課題を解決する手段として、「共にはたらく」という視点で考え、国内だけでなく海外のさまざまな現場からの事例を参考にして、共に話し合える場としたいと考えます。
- 2 主催 全国国際教育研究協議会  
青森県高等学校国際教育研究協議会  
青森県高等学校文化連盟国際理解部  
東北地区高等学校国際研究協議会
- 3 共催 独立行政法人国際協力機構（JICA）
- 4 後援・協賛 外務省、文部科学省、財団法人日本国際協力センター、独立行政法人国際交流基金、青森県教育委員会、青森県、財団法人青森県国際交流協会、青森県青年海外協力協会、八戸市教育委員会（順不同） \*申請予定含む
- 5 日時 平成21（2009）年 8月 21日（金） 9：00～16：30  
22日（土） 9：00～13：00
- 6 会場 青森厚生年金休暇センター（ウエルサンピア八戸）  
〒039-1111 青森県八戸市東白山台1丁目1-1 電話番号 0178-23-5151 FAX 0175-23-5566  
最寄り駅 JR東北新幹線、東北本線、青い森鉄道、岩手銀河鉄道 八戸駅
- 7 参加対象  
全国国際教育研究協議会加盟校の教職員及び生徒  
第29回高校生英語弁論大会出場生徒及び引率者・保護者  
第9回留学生日本語弁論大会出場生徒及び引率者・保護者  
国際協力・交流・理解、開発教育等に関心のある教職員、生徒及び保護者  
国際教育関係諸機関の職員  
国際教育や開発教育に関わるNGO及びNPOの職員・会員等関係者
- 8 大会日程 1日目 弁論大会（表彰まで）、大会基調講演、分科会を実施  
2日目 地球のステージ、パネルディスカッションを実施
- 9 参加費 3000円（1日のみでも同額）昼食代、教育懇親会費、宿泊費等は別途
- 10 大会事務局 青森県立三本木農業高等学校 坪 宏至  
〒034-8578 青森県十和田市大字相坂字高清水78の92  
Tel 0176-23-5341 Fax 0176-23-2141

## (7) 弁論大会規定見直しについて

本日の総会では、質疑応答及び意見交換のみを行い、全国事務局案を各都道府県へ持ち帰っていた  
だき、来年度の全国総会で決定する手順でお願いしたい。

### A 高校生英語弁論大会及び留学生日本語弁論大会の開催要項見直し (共通部分)

#### 1 参加生徒の確定方法について

(1) 現行規定に基づき、参加者(最大9名)を確定する。

大会開催県代表 1名

大会開催ブロック代表 1名

各地区ブロック代表 各1名 \*最大7名(開催ブロック除外・中国地区含む)

\*北海道(1)・東北(6)・関東甲信越静(11)・中部(6)・近畿(6)・  
(中国(5))・四国(4)・九州(8) ( )内は都道府県数 7ブロック+1

(2) 欠員が出た場合、 の順番で最大9名まで補充する。

この手順で9名に達しなかった場合は、大会事務局と全国事務局とで協議し、人数の補充  
等を行う。

大会開催県から+1名 \*開催県から2名参加することがあります

大会開催ブロックから+1

ブロックの加盟都道府県数を勘案し、関東甲信越静 九州 中部・東北・近畿 四国 北  
海道の順番に1名ずつ補充していく

中部・東北・近畿は同県数なので、大会事務局の判断に一任する。

##### \*補足事項

開催県・地区からの参加者が多くなることは、生徒の負担(旅費等)を軽減することにつな  
がる。

開催県・地区の負担は大きく、多少でも大会開催の労に報いることにつながれば、大会開催  
への合意を得やすくなる。

#### 2 参加申込及び連絡について

(1) 現行どおり、参加申込は大会事務局が請け負う。全国事務局は経由しない。

(2) 欠員発生時は、上記1の手順を踏み、該当地区へ連絡し、参加者を確定する。

##### \*補足事項

各都道府県/ブロックでの予選において、全国大会出場者に加え、次点の生徒を必ず  
決めておき、欠員時に対応できるようにする。欠員時には大会出場もあり得るといった説明  
をしておくとともに望ましい。

特に外国人(留学生)日本語弁論大会においては、夏休み中に離日するケースが少ない  
ので、できれば、全国研究大会近辺の予定を把握しておけるとよい。

##### \*確認事項

関係各機関への賞状申請、盾の準備、審査員(来賓と兼任)の派遣依頼に関する連絡・  
事務手続き等は、従来どおり、全国事務局が行う。

参加人数の変動等、大会事務局と全国事務局とで適宜連絡を取りあいながら準備する。

## B 高校生英語弁論大会の開催要項に関する見直しについて

### 1 在外(外国で生活や教育を受けた)経験のある生徒の参加について

現行通り、特に参加制限等の措置はとらない。ただし、弁論内容及び採点基準を見直し、「国際研らしさ」をつけ加える 次項目2を参照

### 2 大会規定における弁論内容

現行規定に、全国事務局案をつけ加える。

#### \*現行規定

弁論内容…国際教育、国際交流、国際協力、国際ボランティア活動に関するもの。演題は自由。高校生としての主張を含み、未発表原稿であること。

#### \*事務局案

国際教育、国際交流、国際協力、国際ボランティア活動に関する生徒自身の体験(授業やクラブ活動などで学んだことや主体的に調査研究したことがらも含む)を通じて考えたことを弁論内容とすることが望ましい。地球環境問題や世界平和、貧困問題などに関して、自分の考えを英語で弁論してもよい。在外経験や留学体験がある人は、その経験や感想だけでなく、自分の経験と地球的課題や国際的な問題などを関連させた弁論を行うことが望ましい。

#### \*事務局案に関する補足説明

在外経験・留学経験のある生徒は、在外経験等を有しない生徒に比べ、英語のスキルが高いケースは珍しくない。しかし、本弁論大会は、「21世紀を担う高校生が国際理解・国際交流、国際協力、国際ボランティアに関する主張を、英語で発表することにより、国際感覚豊かな生徒の育成と目指すもの」(弁論大会の趣旨)であり、内容面を重視するところに特色がある。

こうした点を踏まえ、生徒自身の問題意識こそが大切という基本姿勢を明記し、以下の項目3の論旨の項目例と関連させてはどうか、と考えた。

### 3 大会規定における審査内容

現行規定に、全国事務局案をつけ加える。

#### \*現行規定 審査内容…論旨(60点)・態度(20点)・音声(20点)を総合して審査する。

#### \*事務局案 論旨の項目として、以下の内容を示す。

- ・ 地球的な視点で述べられているか(地球的な視点を感じられるか)
- ・ 生徒本人の体験(考え)が述べられているか
- ・ 行動の変容があったか(体験を通じて態度や行動に変化があったか)
- ・ 将来の行動に結びつく内容であったか
- ・ 単なる感想や異文化体験報告ではない弁論か

## C 留学生日本語弁論大会の開催要項に関する見直しについて

### 1 留学生日本語弁論大会の名称変更について

現行の留学生日本語弁論大会から高校生日本語弁論大会へ名称変更を行う。

#### \*補足事項

在日外国人の参加を明記するため、大会名から「留学生」の文言を外す。

関係諸機関への説明を全国会長・事務局長から行い、状況によっては、名称は現行のままとすることもあり得る。(大会回数の継続や大会後援許可等に支障が出る場合)  
日本人生徒 = 英語 在日外国人生徒 = 日本語という大枠は現行どおり。

## 2 参加資格について 特に在日期間に関して明記する

現行規定を見直し、5項目に整理する。

### \* 現行規定

- (1) 各都道府県高等学校国際教育研究協議会の加盟校に留学している生徒
- (2) 各都道府県高等学校国際教育研究協議会の会長が前項に準ずると認められた生徒
- (3) 各都道府県・各ブロックおける選考会を経て選出された生徒  
( 大会時に日本に滞在していること)

### \* 事務局案

- (1) 各都道府県高等学校国際教育研究協議会の加盟校に留学している生徒
- (2) 外国籍の生徒
- (3) 在日期間が通算5年以内の生徒であること
- (4) 各都道府県・各ブロックおける選考会を経て選出された生徒
- (5) 弁論大会開催時に、日本に滞在していること

## 3 大会規定における審査内容

現行規定に、全国事務局案をつけ加える。

### \* 現行規定

審査内容…論旨(60点)・態度(20点)・音声(20点)を総合して審査判断する。

### \* 事務局案 論旨の項目として、以下の内容を示す。

- ・ 日本語を正確にしゃべることができたか
- ・ 「自分自身の言葉」としての弁論か(生徒自身の考え方や視点が表現できたか)
- ・ 出身国と日本とを比較して述べられていたか

### \* 事務局案に関する補足説明

「日本語を母語」としない生徒が日本語で5分程度の弁論を行う場合、相当程度の日本語力が必要と思われる。国際研における日本語弁論大会の狙いは、国際理解を深めるための双方向の発信であるので、できるだけ参加者(外国人生徒)が「自分自身の言葉」で表現した弁論であることが望まれる。ここ数年、開催地の生徒が弁論大会を傍聴することが多く、英語・日本語ともに傍聴生徒にとっても、貴重な学びの場となっている。さらに大会を充実させるためにも、参加規定と審査内容を整理する必要があると認識した。

もし、高校2~3年生が参加する場合、在日期間を5年以内とすれば、中学2年生頃に来日した生徒であっても参加資格がある。また、1年間の予定で来日する留学生たちは、秋~夏休み前(1年間の場合)までというケースが大半で、8月後半の弁論大会の頃にはすでに帰国している場合も多い。各地区での参加者確保は、相当な労力を要し、全国研究大会の開催地によっては、参加者6名を集めることに苦慮したこともあった。国際研の弁論大会には、関係各機関(外務省・文部科学省・JICA・国際交流基金・JICE・全国国際研)からそれぞれ賞が授与されるので、最低6名の参加者を確保することが必須である。

こうしたことを考えあわせると、この際、「門戸を広く開放」し、より参加を呼びかけやすい参加条件を整えるべきと考えた。

## D 今後の日程

- 1 2009(平成21)年度 全国総会にて検討・意見交換を実施 本日
- 2 提案内容の大筋が了解された場合は、関係各機関等へ説明等を行う 全国会長・事務局
- 3 各都道府県にて審議・意見交換等を行っていただく 質問等は随時全国事務局長へ
- 4 2010(平成22)年度全国総会にて再度審議、新開催要項を決定
- 5 2010年度夏の茨城大会より新要項実施  
(厳しければ、2011(平成23)年度和歌山大会より実施)

## 関係諸機関から

- (1) 21世紀東アジア青少年大交流計画について (財)日本国際協力センター
- (2) 高校生エッセイコンテストについて (社)青年海外協力協会
- (3) 外務省 開発教育・国際理解教育コンクール 外務省
- (4) その他

### 1) 拓殖大学 国際協力・国際理解賞コンクール

2008(平成20)年度で第10回目のコンクールで、全国国際研も後援をしている。

アクションプログラム(生徒の主体的活動による国際理解・交流等の報告=教員の授業実践報告ではない)への応募勸奨について、特に協力して欲しいとのこと。

## 連絡事項

### (1) 全国研究大会開催について

おかげさまで、2009(平成21)年度の青森大会、2010(平成22)年度の茨城大会、2011(平成23)年度の和歌山大会までは開催予定が立っている。だが、それ以降の開催地は未定である。

大会開催には、多くの時間とエネルギーを要する。一方、大会開催を通じて、国際教育の普及につながったとの感想も耳にする。国際研は、各地区ブロック制をとっているので、「地区持ち回り制」を原則とすべき、との意見がある。だが、現実的には厳しく、ここ数年、全国研究大会開催地を固定化せずに、全国会長・事務局等から個別に依頼をし、引き受けていただいている。

いずれにしても、準備には相当な時間を要するので、しばらく全国研究大会を開催していない地区においては、2012(平成24)年度以降の開催について、ぜひご検討をお願いしたい。

全国事務局としては、昨今の社会情勢等をふまえ、「よりシンプルな大会」(経費がかかりすぎない大会...公共施設や学校を会場に冊子等も部数を絞り、Webを積極的に活用する)としたいと考えています。同時に、「学校現場に立脚する」という国際研ならではの大会(生徒・教育関係者・市民(保護者も含む)が参加する、地域に開かれた大会)を継続していきたいと思っております。

(2) 加盟校名簿更新作業について

6月中をメドに、昨年度のデータ及び更新手続の手順をお送りします。昨年度のデータ(エクセル)がお手元にある都道府県は、事前に修正していただくと助かります。また、データのやりとりは、できるだけ、メールで行いたく存じます。データはエクセル、更新手続手順の説明はワードです。

締切(予定)は、7月末。期限までにデータが届かない場合は、昨年度のデータを掲載します。ご了解下さい。

(3) 会費納入について

別紙資料に従い、期限までに指定口座へ会費を納入ください。

納入の遅れ等の連絡や問い合わせは、直接、会計担当者(幸田)までお願いします。

(4) ブロック補助金申請について

全国会計から、年度ごとに3万円を交付。申請に関する書類は、今年度のブロック事務局校にのみ、配布。申請手続の期限をお守りください。

(5) 国際教育功労者推薦について

必要書類(B4版・別紙)に必要事項を記入の上、全国事務局長までご推薦ください。

(6) 全国組織の名称変更について

国際研では、中等教育学校や中高一貫校等の全国的な広がりを踏まえ、全国組織の名称から「高等学校」を除く変更を行い、規約を一部改定しました(2003(平成15)年度全国総会)。

(旧名称)

(新名称)

全国高等学校国際教育研究協議会



全国国際教育研究協議会

各都道府県の事情を踏まえ、国際教育の普及・拡大につながる名称変更をご検討ください。

(7) Web について

詳細は冊子巻末部分を参照。問い合わせは、Web 担当(斉藤)まで。

各都道府県事務局のアドレス、パスワードは、別紙プリントにてご確認ください。

(8) NPO 国際研(国際教育協会/JAGE)について

いよいよ6月中に、正式に認証される予定。認証後にすぐに法人設立申請に入ります。概要は以下のとおり。

名称 特定非営利活動法人 全国国際教育協会(JAGE)

理事長 矢田部 正照(元全国会長・現顧問) 事務局長 高橋 博文(元 APIC 国際協力推進協会)

詳しくは、JAGE の HP をご参照ください。 <http://www.kokusaiken.org/npo/index.htm>

国際研をサポートし、国際研でできなかった(できにくい)分野を強化し、国際教育を推進します。

具体的に考えられる業務(例) エッセイの取りまとめ・1次審査(JICA) 東アジア青少年大交流計画(JENESYS)のコーディネート(JICE) 外務省グローバル教育コンクールのコーディネート 開発教育・国際理解教育コンクール(外務省) シニアボランティア、専門家への人材バンク登録と紹介 国際交流基金など国際交流組織とのコーディネート ODA 教育開発分野への参入 グローバル教育教材開発 調査業務 その他

### (9) その他

#### 1)日本教育連合会について

いわゆる「補助金」が交付されない状況が続いているが、2006年度の総会后、各県事務局から加盟継続の意見が寄せられたので、当面継続としている。ただし、今後、さらに財政状況が逼迫した際には、検討課題となると思われる。

#### 2)個人会員(入会希望者)について

JICA 教師海外研修に参加された先生方(小/中/高/養護学校)や各地で国際教育(国際理解教育・開発教育)を研究している先生方(大学等も含む)、NGOなどで活動している方などの全国国際教/国際研への個人入会については、2006年度の全国総会で次のように了解された。

当面、加盟費はとらず、総会での議決権は認めない。なお、加盟費や議決権の扱い等については、個人会員の今後の動向を見て、改めて総会で提案する。

全国国際教育研究協議会の規約では、各都道府県国際研を正会員(会費負担、議決権あり)とし、関連諸団体と賛助会員としている。

国際教育協会(JAGE/NPO 国際研)への加盟を勧めるやり方も含め、検討課題です。

#### 3)個人情報保護法に関して

Web・刊行物における「生徒の顔写真」掲載は、原則として中止。(安全上の観点からも)。

各事務局で発行される刊行物やWeb等において、生徒の個人名などが特定できるような写真等を掲載することはお控えください。名簿の取り扱い等についても慎重な対応をお願いします。

# 全国国際教育研究協議会（略称 全国国際教）会則

（旧 全国高等学校国際教育研究協議会）昭和45年10月13日 昭和46年5月28日改正

昭和49年5月30日改正 昭和51年6月3日改正

昭和53年5月25日改正 昭和58年5月26日改正

昭和60年3月30日改正 平成15年5月30日改正

## 第1章 名称および所在地

第1条 本会は、全国国際教育研究協議会と称し、事務局を会長の指定するところに置く。

## 第2章 目的および事業

第2条 本会は、学校において、国際理解と国際協調の精神を涵養し国際社会の中で積極的に行動できる有為な人材の育成を目指す国際教育の研究と実践の推進を図ることを目的とする。

第3条 本会は、その目的達成のための次の事業を行う。

1. 各教科科目および特別活動等全ての教育活動のなかでの指導と実践。
2. 国際教育に関する教師の実践研究と研修。
3. 国際教育に関する諸行事の実践。
4. 海外事情の調査研究および資料の収集。
5. 調査研究報告等の印刷物発行。
6. 関係官庁および諸団体との提携。
7. その他目的達成についての必要な事項。

## 第3章 会 員

第4条 本会の会員は次のとおりとする。

1. 正会員 各都道府県（高等学校）国際教育研究協議会
2. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの。

## 第4章 役員および職員等

第5条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1 名
2. 副 会 長 3 名
3. 理 事 若干名
4. 常務理事 若干名
5. 監 事 3 名

第6条 役員を選出は次のとおりとする。

1. 会長、副会長、監事は理事会において推薦し、総会の承認を求める。
2. 理事は各ブロックの（高等学校）国際教育研究協議会の代表および会長の推薦するものをもって、これにあてる。
3. 常務理事は、理事会において選出する。

第7条 役員の仕事は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその代理をする。
3. 理事は理事会を構成し、本会の会務を執行する。
4. 常務理事は、本会の会務を処理するため、必要に応じ委員会を設けることができる。
5. 監事は会計を監査する。

第8条 役員の仕事は次のとおりとする。

1. 役員の仕事は2年とし、再任をさまたげない。
2. 補佐された役員の仕事は前任者の残任期間とする。

第9条 本会に顧問を置くことができる。

顧問は理事会の推薦によるものとする。

第10条 本会に事務局長および書記を置く。

事務局長および書記若干名は会長が理事会に図って、これを委嘱する。

事務局長は本会およびその他の事務を処理する。書記は、事務局長を補佐し、本会の事務を司る。

## 第5章 会 議

第11条 本会は毎年1回総会および理事会を開く。ただし、会長が必要と認めるとき、または会員の3分の1以上が要請したときは臨時総会および理事会を開くことができる。総会は会員の過半数の出席をもって成立する。

第12条 総会の議長はそのつど選出する。

第13条 総会において、次の事項を議決する。

1. 予算決算の承認
2. 役員の仕事承認
3. 会則の改正
4. その他必要な事項

第14条 総会を開くことが困難な場合には、理事会をもって、これにかえることができる。

第15条 理事会は次の事項を審議する。

1. 予算および決算
2. 役員の仕事選出
3. 会則の改正
4. その他必要な事項

第16条 会議の議決は出席者の過半数による。

## 第6章 会 計

第17条 本会の経費は、会費、助成金、賛助金、寄付金、その他をもってこれにあてる。

第18条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

## 第7章 附 則

第19条 本会則は昭和60年4月1日から施行する。

第20条

1. 昭和60年度総会（昭和60年5月30日）において全国高等学校海外教育研究協議会を全国高等学校国際教育研究協議会と名称変更する。
2. 平成15年度総会（平成15年5月30日）において全国高等学校国際教育研究協議会を、全国国際教育研究協議会と名称変更する。

## WEB 資料 各県ブログのページの書き込みマニュアル

### ブログに書き込みを定期化してください

県によってはすでにホームページを準備したところもありますがまだまだ、全県にはほど遠い状態です。しかし、全国連合組織としての国際研は各県がそれぞれ独自の開発教育活動を行っておりそれを知らせていく義務があります。そこで、ホームページの作り方がわからなくても各県の最新情報を事務局が簡単に WEB に書き込めるように各県ブログのページを用意しました。ブログ形式ですと、ホームページの知識がなくても、簡単に情報を書き込むことができます。これで、全県が情報を WEB に載せることができます。WEB より簡単に書き込め全国の動きがわかるので、すべての県で書き込むようにしてください。

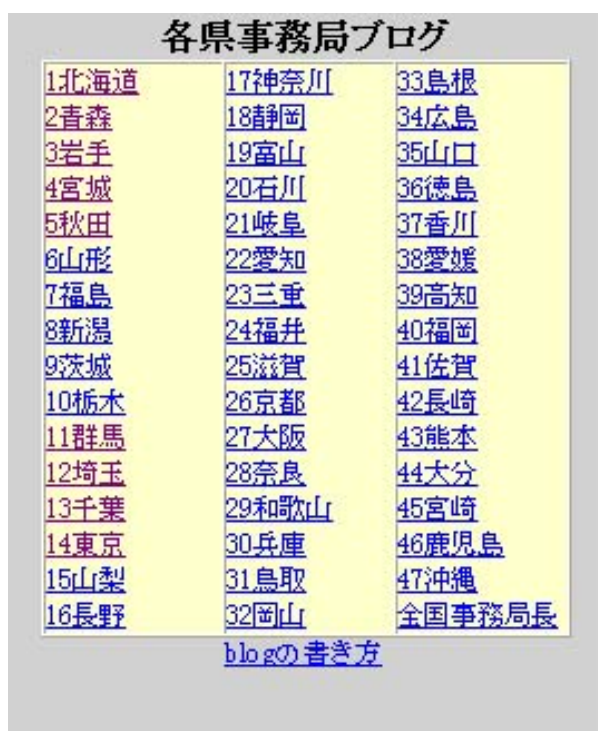
### 各県ブログページの使い方

各県ブログは国際研のホームページのサーバーエリアを使っていますので、宣伝など入らずに、自由に使うことができます。また、画像もひとつの書き込みごとに 3 枚までの画像を、自分のコンピューターのフォルダーから簡単に UP することができます。

各県のブログの場所は国際研のWEBページを開くと表紙の右下に右図の各県事務局ブログのリンクがあります。

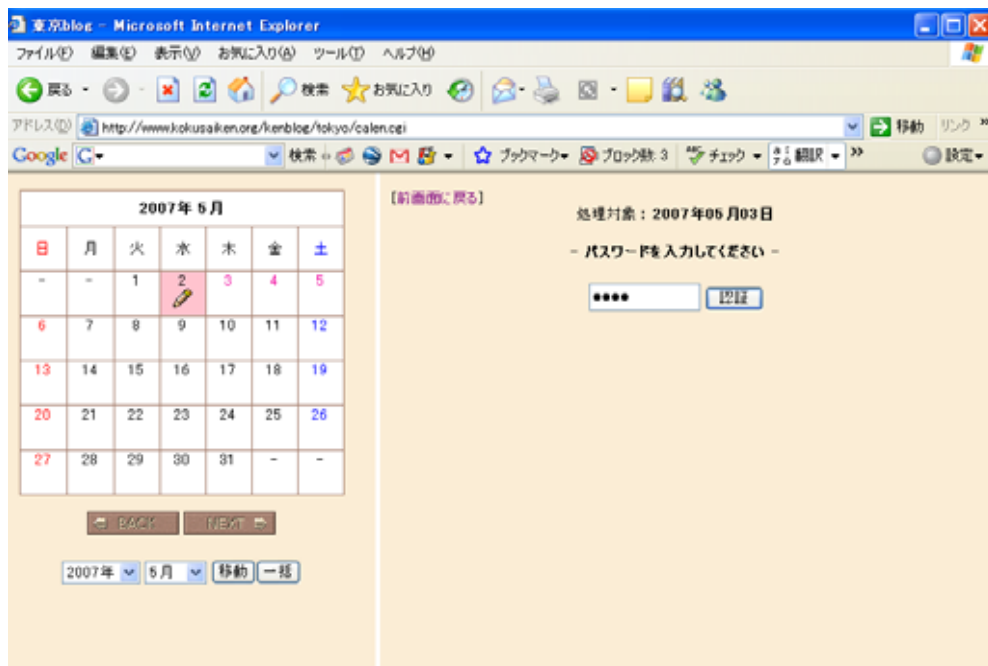
( <http://kokusaiken.org> )

ここで、自分の県をクリックすると以下のような画面になります。





ここで5月3日に書き込みたい場合は3の数字をクリックしますと、パスワード入力画面になります。ここで各県に配布されたメールと同じパスワード英数6桁をいれてください。



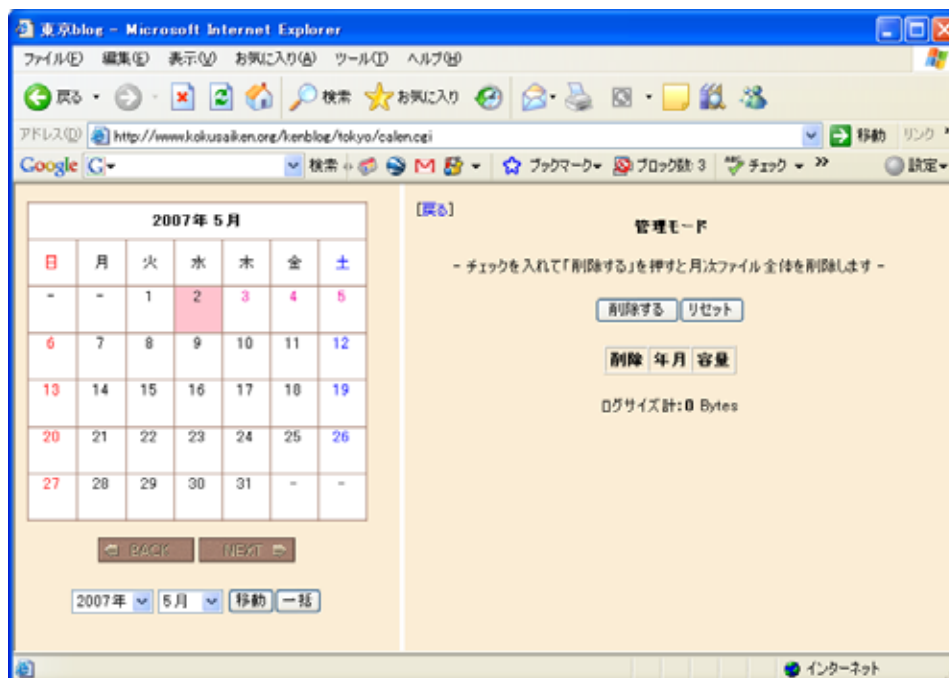
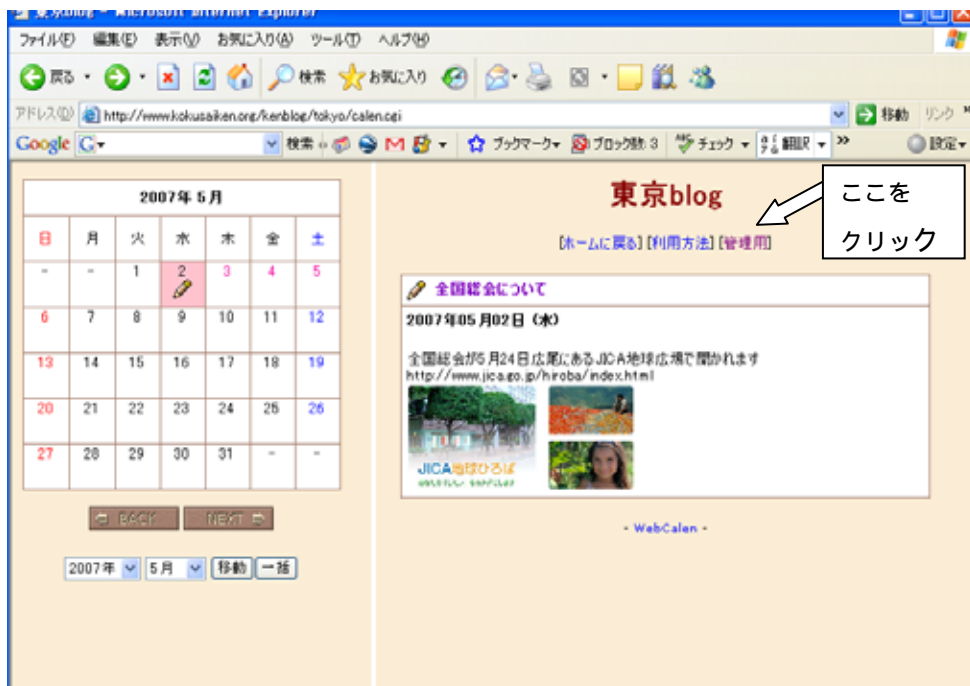
認証をクリックしますと、書き込みフォームが現れます。この画面は2日に記入する画面になっています。タイトルをいれて、カレンダー表示のマークを決めます。次に画像を入れる場合は参照をクリックして自分のPCの画像を入れてあるフォルダーを選択してください。画像はJPEGなど100k以下に圧縮して入れてください。デジカメでとった映像そのままだと容量が大きすぎます。付属のソフトなどでピクセルを小さくしてから入れてください。3枚まで入れられます。最後にコメントに文章を書いてください。書き終わったら、下の「書き込む」ボタンをクリックしてください。

これで、以下の画面のように正常に書き込みを受理しましたとできれば、成功です。ここで初期画面に戻るをクリックしますと、新着情報の画面に戻ります。新着情報の見たい内容をクリックすると先ほど書き込んだ画面が見られます。

## 次は削除の方法です。削除の方法は2種類あります

月の書き込みをすべて削除する方法とその日だけの削除です。

月の書き込みすべて削除する場合は上の画面の「東京blog」下にある[管理用]をクリックしてください。以下の画面に変わり月次ファイルをすべて削除することができます。



もうひとつは、書き込んだその日だけのファイルを削除または修正する方法です。その場合は左側のカレンダーの数字だけをクリックしてください。以下の画面になり、修正か削除が選択できます。パスワードをいれ「認証」を押すと削除または修正ができます。



以上です。

使い方はとても簡単で誰でもできることがわかんと思います。

ブログが広がった理由は、ホームページのことを知らない人でも簡単に書き込める手軽さです。ためて構えて書き込むのではなく日記的な感覚で書き込めます。これにより、国際研の全国の動きが見え、外部にたいして信頼されることにつながります。ログをみるとブログの書き込みによりアクセスが格段に変化しています。広報効果が高いことは証明されています。

最低でも県のスケジュールや、組織や連絡先などだけでもいれて県のページを作ってください。箇条書きでもかまいません。

## 各県配布 新 WEB メール (Horde) の使い方

2007(平成 19)年度から、新サーバーにうつり、事務局体制の電子化をますます進めたいと思います。文書等は、ほとんどこのメールを使いますので、毎日 1 回は確認してください。確認は学校でも自宅でも、出先でも WEB が見えるところであればどこでも確認できます。WEB メールを活用は、学校のインターネットを使いながらも学校のサーバーを使うことなく連絡がとれますので、学校のインターネット管理者に迷惑をかけることがほとんどありません。ぜひ、この WEB メールを活用し、連絡を行ってください。

県事務局連絡先として名刺などに刷り込むのも良いと思います。

まず下の国際研のWEBページをひらいてください。このページはyahooやGoogleなどの大手検索で「国際研」を検索してもらえるとすぐに検索されます。この方法で開いてもらっても良いし、直接<http://www.kokusaiken.org> で打ち込んで検索してもらってもかまいません。ページが開きましたら画面右中央にある「Web Mail」をクリックしてください。



The screenshot shows the homepage of the Japan Association for International Education (JAFIE). The page features a navigation menu at the top, a search bar, and a main content area with various sections. A white arrow points to the 'Web Mail' link in the right sidebar, which is labeled 'ここです' (Here).

061384

2007年kokusaiken.comから kokusaiken.org に

全国国際教育研究協議会  
JAPAN ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL EDUCATION

Since1958 全国 約2500校以上が会員校です  
Japan Association For International Education

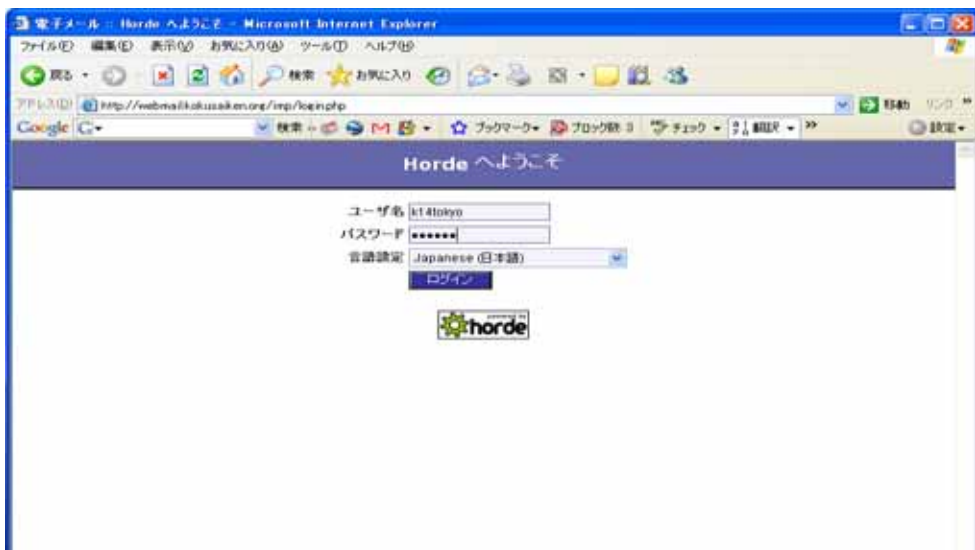
全国国際教育研究協議会(は地球市民育  
成のため全国の学校から国際教育(国際  
理解教育、国際教育)を研究実践し、世  
界に発信する研究会です。

会長 長谷川賢(東京独立 神代高等学校長)  
全国事務局員 女屋隆克(新宿山吹高校通信制)

JAFIE  
略称「国際研」「国際研」(「ジャフイー」)  
旧名称「全国国際教育研究協議会」  
2003/5/17 変更

NEW 各県事務局専用WebMail  
Web Mail ができました。各県事務局に  
配布したメールアドレスとパスワードを入力すると  
使えます。出先や職場等でのメール確認に使っ  
てください。

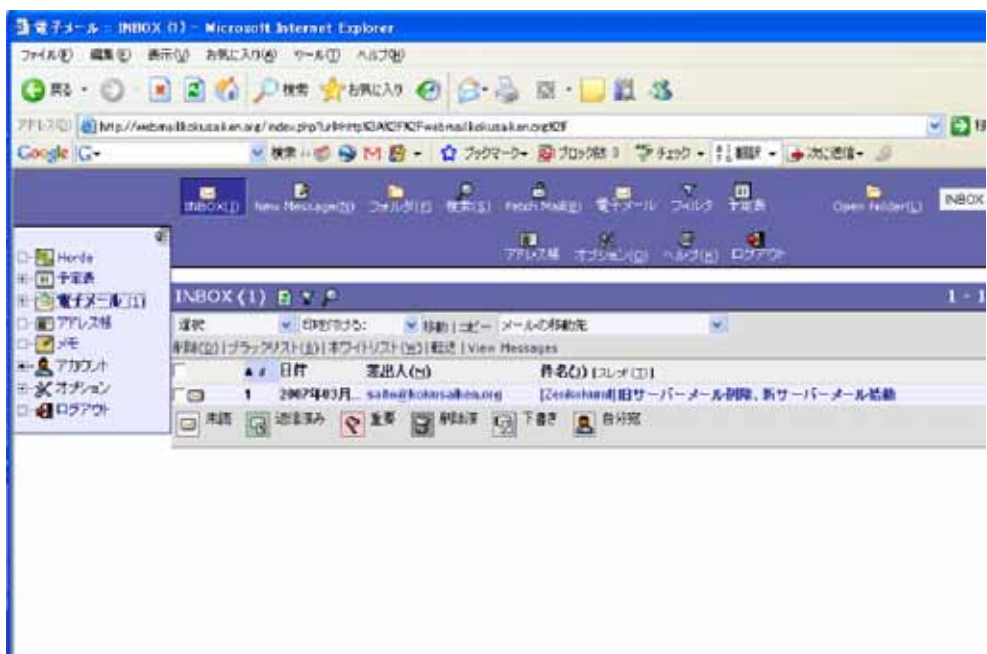
クリックしますと、以下のログイン画面が出てきます。ここでユーザー名とパスワードを入力するだけです。ユーザー名は 県メールの@より前の部分です。例えば、東京の場合 [k14tokyo@kokusaiken.org](mailto:k14tokyo@kokusaiken.org) ですから k14tokyo がユーザー名になります。パスワードは英数 6 桁のこちらで県別に配布したものを使ってください。



入力が終わったら、「ログイン」をクリックしてください。以下のような画面になり、通常のメーラーと同じように使えます。メールの確認は「電子メール」をクリックすると出てきます。また新規にメールを作成する場合は「NEW message」をクリックしてください。その他に予定表などたくさんの機能がつかえます。余裕のある方は使ってみてください。

迷惑メールが来たときには、ブラックリストに登録すると次からそのあて先からのメールは届かなくなります。

メールアドレスとパスワードは別紙で各県に配布しますので慎重に扱ってください。



## メーリングリストと個人フリーメール登録について

メーリングリストは、一本のメールで会員全員に同時に連絡できる便利なシステムです。ただし、セキュリティや SPAM 対策のために登録されたメールアドレスからの送信しか許可されません。そこで各県に WEB メールを配布しています

しかし、最近このWEBメールを開いていない県事務局が多くなってきました。

せっかくの全国事務局からの連絡も、開いていないためメーリングリストでの連絡がそのままになっている県があります。

そこで、今年からは、このWEBメールの他に、個人で使っているヤフーやグーグルなどのWEBフリーメールなどを登録してもらうことにします。

これにより、国際研の県メールアドレスの他に、自分のフリーメールにも連絡がと届くので連絡がすぐにチェックされるようになります。また、逆に自分のフリーメールから各県への連絡も送れるため相互連絡も活性化されることとなります。

県の事務局長（以外でも連絡担当者）は自分で使っているフリーメールのアドレスを、全国事務局長（[tk3cehst@yahoo.co.jp](mailto:tk3cehst@yahoo.co.jp) または [onaya@kokusaiken.org](mailto:onaya@kokusaiken.org)）に送ってください。もちろん、フリーメールでなく個人のプロバイダーメールでもかまいません。このメールアドレスは公表されませんので、クローズされた会員にしか分かりませんので、プライバシーも問題ありません。

**県メールアドレスの点検、整理をお願いします。**

県メールは、管理者でも中身は見ることはできないのですが、容量を見ると、どの県が放置しているか分かります。これを機会に県メールを開き、メールの整理を行ってください。添付メールは開いている PC にダウンロードしてから削除してください。

2009 (H21)年度 各都道府県アドレス一覧表

県名	県ユーザー名 2007	県名	県ユーザー名 2007
北海道	<a href="mailto:k01hokkaido@kokusaiken.org">k01hokkaido@kokusaiken.org</a>	滋賀県	<a href="mailto:k25shiga@kokusaiken.org">k25shiga@kokusaiken.org</a>
青森県	<a href="mailto:k02aomori@kokusaiken.org">k02aomori@kokusaiken.org</a>	京都府	<a href="mailto:k26kyoto@kokusaiken.org">k26kyoto@kokusaiken.org</a>
岩手県	<a href="mailto:k03iwate@kokusaiken.org">k03iwate@kokusaiken.org</a>	大阪府	<a href="mailto:k27osaka@kokusaiken.org">k27osaka@kokusaiken.org</a>
宮城県	<a href="mailto:k04miyagi@kokusaiken.org">k04miyagi@kokusaiken.org</a>	奈良県	<a href="mailto:k28nara@kokusaiken.org">k28nara@kokusaiken.org</a>
秋田県	<a href="mailto:k05akita@kokusaiken.org">k05akita@kokusaiken.org</a>	和歌山県	<a href="mailto:k29wakayama@kokusaiken.org">k29wakayama@kokusaiken.org</a>
山形県	<a href="mailto:k06yamagata@kokusaiken.org">k06yamagata@kokusaiken.org</a>	兵庫県	<a href="mailto:k30hyogo@kokusaiken.org">k30hyogo@kokusaiken.org</a>
福島県	<a href="mailto:k07fukushima@kokusaiken.org">k07fukushima@kokusaiken.org</a>	鳥取県	<a href="mailto:k31tottori@kokusaiken.org">k31tottori@kokusaiken.org</a>
新潟県	<a href="mailto:k08nigata@kokusaiken.org">k08nigata@kokusaiken.org</a>	岡山県	<a href="mailto:k32okayama@kokusaiken.org">k32okayama@kokusaiken.org</a>
茨城県	<a href="mailto:k09ibaragi@kokusaiken.org">k09ibaragi@kokusaiken.org</a>	島根県	<a href="mailto:k33shimane@kokusaiken.org">k33shimane@kokusaiken.org</a>
栃木県	<a href="mailto:k10tochigi@kokusaiken.org">k10tochigi@kokusaiken.org</a>	広島県	<a href="mailto:k34hiroshima@kokusaiken.org">k34hiroshima@kokusaiken.org</a>
群馬県	<a href="mailto:k11gunma@kokusaiken.org">k11gunma@kokusaiken.org</a>	山口県	<a href="mailto:k35yamaguchi@kokusaiken.org">k35yamaguchi@kokusaiken.org</a>
埼玉県	<a href="mailto:k12saitama@kokusaiken.org">k12saitama@kokusaiken.org</a>	徳島県	<a href="mailto:k36tokushima@kokusaiken.org">k36tokushima@kokusaiken.org</a>
千葉県	<a href="mailto:k13chiba@kokusaiken.org">k13chiba@kokusaiken.org</a>	香川県	<a href="mailto:k37kagawa@kokusaiken.org">k37kagawa@kokusaiken.org</a>
東京都	<a href="mailto:k14tokyo@kokusaiken.org">k14tokyo@kokusaiken.org</a>	愛媛県	<a href="mailto:k38ehime@kokusaiken.org">k38ehime@kokusaiken.org</a>
山梨県	<a href="mailto:k15yamanashi@kokusaiken.org">k15yamanashi@kokusaiken.org</a>	高知県	<a href="mailto:k39kouchi@kokusaiken.org">k39kouchi@kokusaiken.org</a>
長野県	<a href="mailto:k16nagano@kokusaiken.org">k16nagano@kokusaiken.org</a>	福岡県	<a href="mailto:k40fukuoka@kokusaiken.org">k40fukuoka@kokusaiken.org</a>
神奈川県	<a href="mailto:k17kanagawa@kokusaiken.org">k17kanagawa@kokusaiken.org</a>	佐賀県	<a href="mailto:k41saga@kokusaiken.org">k41saga@kokusaiken.org</a>
静岡県	<a href="mailto:k18shizuoka@kokusaiken.org">k18shizuoka@kokusaiken.org</a>	長崎県	<a href="mailto:k42nagasaki@kokusaiken.org">k42nagasaki@kokusaiken.org</a>
富山県	<a href="mailto:k19toyama@kokusaiken.org">k19toyama@kokusaiken.org</a>	熊本県	<a href="mailto:k43kumamoto@kokusaiken.org">k43kumamoto@kokusaiken.org</a>
石川県	<a href="mailto:k20ishikawa@kokusaiken.org">k20ishikawa@kokusaiken.org</a>	大分県	<a href="mailto:k44oita@kokusaiken.org">k44oita@kokusaiken.org</a>
岐阜県	<a href="mailto:k21gifu@kokusaiken.org">k21gifu@kokusaiken.org</a>	宮崎県	<a href="mailto:k45miyazaki@kokusaiken.org">k45miyazaki@kokusaiken.org</a>
愛知県	<a href="mailto:k22aichi@kokusaiken.org">k22aichi@kokusaiken.org</a>	鹿児島県	<a href="mailto:k46kagoshima@kokusaiken.org">k46kagoshima@kokusaiken.org</a>
三重県	<a href="mailto:k23mie@kokusaiken.org">k23mie@kokusaiken.org</a>	沖縄県	<a href="mailto:k47okinawa@kokusaiken.org">k47okinawa@kokusaiken.org</a>
福井県	<a href="mailto:k24fukui@kokusaiken.org">k24fukui@kokusaiken.org</a>		

「@kokusaiken.org」は共通です。

問い合わせは、齊藤副事務局長へ [saito@kokusaiken.org](mailto:saito@kokusaiken.org)

パスワードは各県ごとに配布しました。別紙をご参照下さい。なお、会長校と事務局長校が異なる場合は事務局長校へ配布しました。